

編集後記

まず東日本大震災および津波により犠牲になられた沢山の方々には心よりのお悔やみを申し上げます。

2011年の夏は地震および津波による福島第一原発の事故と、それに続く脱原発で節電を求められる夏となり皆様節電対策に工夫、苦勞されたことと思います。私自身も帰宅難民、計画停電を経験し、如何に首都圏の繁栄が福島や新潟の原発に依存していたかを痛感させられる出来事でした。3月11日を境に日本人のライフスタイルそのものが変更せざるを得ない事態となりましたが、むしろ日本人本来の生活習慣への回帰という点では好ましい変化かと考えられます。幸いというか7月下旬から8月上旬は梅雨があけきらないような天候不順で夏というのに30度を超えない日もあり、電力供給の逼迫する事態には至らず、何とか無事に秋の第51回日本核医学会学術総会をむかえられるものと安堵しております。

今回は第31回日本核医学技術学会総会学術大会、第5回日韓中核医学会議、口腔顎顔面核医学フォーラム2011との合同開催となります。

今回のテーマは「核医学による懸け橋 分子イメージングから内用療法への新展開」で開催場所は茨城県つくば市のつくば国際会議場(エポカルつくば)です。交通のアクセスをご心配される方もあるかと思

いますが、都内からつくばエクスプレスで最短45分であり、会場周辺の宿泊施設のキャパシティも十分であり、ご心配には及びません。

募集開始当初は演題数が予想より少なく危惧いたしました。募集期間の延長などで何とかほぼ例年なみの演題数が集まり、安堵いたしました。ご協力いただいた諸先生方に御礼申し上げます。

総会では⁹⁰Mo原料の国産化に向けての現状と課題、原発事故による放射性物質の漏えいについて、核テロ/生物兵器テロと防衛医学などをテーマにシンポジウムやパネルディスカッションを準備させていただき、市民公開講座では聖路加国際病院の日野原重明先生に「長寿のための生き方」でご講演いただくことになっております。

茨城県も被災県であり、被災地の復興という意味でも多数の会員および核医学に興味のある先生方のご参加を期待しております。

最後に今回の学会の開催にあたりご協力いただいた諸先生方、座長、司会を快諾していただいた先生方、様々な形でご協力をいただいた各企業の皆様方に御礼申し上げます。学会場で皆様方にお会いできますことを楽しみにしております。

(第51回学術総会 実行委員長 橋本禎介)

核医学編集委員会

委員長： 絹谷 清 剛 (金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)
副委員長： 佐々木 雅 之 (九州大学大学院医学研究院 保健学部門医用量子線科学分野)
委員： 石井 一 成 (近畿大学医学部 放射線医学講座 放射線診断学部門)
犬伏 正 幸 (放射線医学総合研究所 分子イメージング研究グループ)
河邊 讓 治 (大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
河村 和 紀 (放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
久慈 一 英 (埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
下瀬川 恵 久 (大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座)
立石 宇貴秀 (横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学講座)
橋本 順 (東海大学医学部基盤診療学系 画像診断学)
東 達 也 (滋賀県立成人病センター研究所)
渡部 浩 司 (大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核医学」第48巻3号 平成23年9月30日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-45 (社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail: anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ: <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社